

## 救急医療の根幹を担うがん診療連携拠点病院

### (1) 本県の救急医療体制の現状

- 2次医療圏として新川、富山、高岡、砺波の4医療圏を設定し、「病院群輪番制」を組み、当番病院が休日夜間の重症救急患者を診療しており、**県内のがん診療連携拠点病院の8病院は、全て、2次救急の輪番病院に参画している。**
- 3次救急を担う「救命救急センター」は2箇所、県東部は県立中央病院、県西部は厚生連高岡病院が担っている。2. 5次救急を担う「地域救命センター」（本県独自）は黒部市民病院と市立砺波総合病院が担っている。

#### ■救急医療体制における役割と輪番回数

区分	新川医療圏		富山医療圏			高岡医療圏		砺波医療圏	拠点病院 全 体	他の2次 救急輪番 11病院
	黒部 市民	富山 労災	県立 中央	富大 附属	富山 市民	厚生連 高岡	高岡 市民	砺波 総合		
3次救急			○			○			2	—
2.5次救急	○							○	2	—
2次救急	○	○	○	○	○	○	○	○	8病院	11病院
輪番回数 (月当り)	20回	12回	11回	4回	10回	18回	15回	20回	平均 13.9回	平均 6.5回

### (2) 県内各病院の施設・医師の配置状況

- がん診療連携病院は、本県の救急医療の中核を担っていることから、拠点病院以外の輪番病院に比べ、病床数、手術室共に2倍以上の規模を有しており、また、救命救急用のICUについては、がん診療連携拠点病院にのみ存在する状況である。
- 医師に関しても、拠点病院の総医師数は、2次救急輪番病院の3.4倍、外科専門医も同じく3.3倍、救急科専門医に至ってはがん診療連携拠点病院にのみ配置されており、本県においては、がん診療連携拠点病院なくして救急医療は提供できないと言っても過言ではない状況にある。

#### ■各病院の施設状況

区分	新川医療圏		富山医療圏			高岡医療圏		砺波医療圏	拠点病院 全 体	他の2次 救急輪番 11病院
	黒部 市民	富山 労災	県立 中央	富大 附属	富山 市民	厚生連 高岡	高岡 市民	砺波 総合		
一般病床数	405	300	665	569	539	562	408	461	平均 489床	平均 224床
手術室数	7	6	14	11	8	10	7	9	平均9室	平均4.2室
ICU (救命救急)	10		24			12			46床	—

## ■各病院の医師等の配置状況

区分	新川医療圏		富山医療圏			高岡医療圏		砺波医療圏	拠点病院 全 体	他の2次 救急輪番 11病院
	黒部 市民	富山 労災	県立 中央	富大 附属	富山 市民	厚生連 高岡	高岡 市民	砺波 総合		
医師数	85.6	40.7	184.0	333.4	81.7	117.2	64.4	85.9	平均 124.1人	平均 36.0人
外 科 専門医	7.1	5.0	15.0	26.0	10.0	11.0	8.2	7.4	平均 11.2人	平均 3.3人
救急科 専門医			2.0	6.0	2.0	3.0	1.0	4.0	平均 2.3人	— 人

### (3) 本県の救急医療の根幹を担うがん診療連携拠点病院

- 本県の高齢者人口が平成32年にピークを迎え、医療・介護ニーズの高い75歳以上人口は平成42年にピークを迎えることが見込まれていることから、救急医療の需要は、今後とも増加していくものと推計される。
- 本県においては、病院前救護体制の充実、適正受診の推進、初期急患センターや救急病院への財政支援など施設・設備面での受入体制の強化、医師確保対策等に加え、**ドクターヘリの導入準備を進めている。**
- がん診療連携拠点病院は本県の救急医療の根幹を担う基幹病院であり、増加の一途を辿ると予測される救急需要に適切に対応するため、今後とも、がん診療連携拠点病院の施設規模、人員体制の確保に努める。